雪の雫

紫闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
雪の雫

【Ｎコード】
Ｎ４４７９Ｙ

【作者名】
紫闇

【あらすじ】
旅の途中に女の子、拾っちゃいました。
え、ほっといていけばよかったって？
いえいえ、俺はそんなこと出来ない性分でして。
いつの間にか名づけ親にもなってました。まあいいんじゃない？一緒にのんびり旅していきますよ。
あ、因みに俺は主人公じゃないですよ～主人公は拾われた女の子のほうですから。

1．（前書き）

のーんびりと書いていきます。

楽しく読んでくれると嬉しいな。

1.

ソルティアと呼ばれる国

ここでは、神と天使が国を護っていた
神は音楽を愛し、音を奏でているところでは常に神の使いである天使がいた

音楽を愛する限り、
そして音を捧げ続ける限り人々は神に護られ続ける
そう皆は信じていた

素晴らしい音楽を奏でる神官たちは自己の力を伸ばすことに専念し
また、武に優れたものは時折現れる悪しき者を滅し続けていた

町人は、たくさんの店を開き、
王は、その光景に満足していた

つい、最近までは。

平和なはずだった

この国に亀裂が走ったのがいつだったか、今では誰も覚えていない

ほんの些細な出来事だった

国はその中で分裂を繰り返し、国の中にいくつもの国が出来た

争いは度々起き、人々は疲れながらも行動を止めようとはしなかった

そんなある日のことだった
その少女が生まれ出たのは

1．（後書き）

よんでくださってどうもありがとうございます。
これからもよろしく！…なんて。
すみません。冗談です。

0．出会い（前書き）

時間があまり作れない…！
学生って意外と多忙だったんですね。
楽しく読んでくれるとうれしいなぁ。

0．出会い

お母さんの声が聞こえる。

いや、これは、

お母さんなのかな？

ああ、冷たい。

ここはどこだろう？

ただ、真っ白。

他の色なんてどこにもない、そんな世界。

＊

「はぁ…」

白く空気が曇る。

アルフは手をこすって温めながら、雪の森を歩いていた。

旅は厳しい。

やっぱりあいつと一緒に行けばよかったな。

俺、なんでこんなに意地を張ってたんだっけ。

忘れた。

ま、いいや。

気を取り直して、アルフはザクザクと雪を踏みながら進む。

とそこで、遠くに何か居ることに気づいた。

「ん、なんだ、あれ」

近づいてみる。

それは、小さな少女だった。

「わお」

抱きかかえてみて、その冷たさにぎょっとした。

はやく温めてやらないといけない。

こんなことを言ってはいけないが。

「なんか、偉いもん拾ったなあ」

とげんなりするのだった。

0．出会い（後書き）

え、女の子拾っちゃいましたよ。
まあ、主人公だったりするんですが。
アルフ君はめんどくさがり屋ですね。
そんな子も好きです。

あ、そうそう。
よんでくださって、ありがとうございます。

1、対面と命名（前書き）

こんばんは。
のんびりと打ってますよ。

まあ、楽しく読んでくれるとうれしいな～
なんて思ってます。

1、対面と命名

「大分体温が戻ってきたか…」

近くに宿があって幸いだった。
あの雪の中で野宿はちょっと…遠慮したい。

そこでアルフは気づいた。

（ん？
熱が出ている）

というように。

「まあ、あんな中で放置されてたら、無理もないか」

見た目からすると、５歳位だろうか。
風邪もひきやすいだろう。

水でタオルを軽く絞ると、顔をふいてやった。

「俺ってなんかよく世話が出来る人間になるかもな」

自分をほめながら世話をしていくアルフを見て、宿のおかみさんはこう思ったそうな。

――風邪をひいてる子どもの世話をするのは当たり前だっ！

と。

＊

目が覚めると、なんだか温かかった。

いつの間にか、寝ていたらしい。

手を握られているのだろうか。

寝ている少女を見ると、

いや。

少女は起きていた。

このあたりではよく見られる緑の目で不思議そうにこちらを見られていた。

「ん。起きたか」

アルフは驚きを隠し、平静を装うのに必死だったが、少女はそれを知ることはない。
熱のせいだろうか。少女はぼうっとしていたが、もう大丈夫そうだった。
それを確かめると、アルフは聞きたかった質問をする。

「あー…ところで、名前を教えてくれないか？」

＊

「なまえ？」
少女は首をかしげた。

――名前って？
わたしにはなまえはないんだよ。
お母さんがね、わたしにはなまえなんていらないって。
必要ないんだって。
そう言ってたんだよ。

目の前のお兄ちゃんは、すっごく驚いていた。
なまえって、生きているものには必ずあるものなんだって。
わたしは生きてるよ。
なんでなまえがないの？

聞くとお兄ちゃん、ううん、なまえはアルフっていうらしいんだけど。
アルフお兄ちゃんは困ったように笑って、なまえを付けてくれるって言った。

「う〜ん…そうだなあ。雪の降る日に会ったから、スノウドロップってのはどうだ？」

スノウドロップ。

うん。いいなまえ。

今日からわたしはスノウドロップ。雪の降る日にお兄ちゃんと会った女の子。

1、対面と命名（後書き）

スノウがかわいい…！！

名前を付けるとき、アルフは困ったように笑いながらも、めんどくさいと思ってたりします。

困った人だ…

よんでくださってありがとうございます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4479y/

雪の雫

2011年11月17日19時41分発行